

架空建築家ガイド

現実の歴史には存在しない建築家を想像しなさい。

その建築家は架空の存在ではあるが、歴史のうえでいかにも実在したかのように、細部までリアルに設定し、現実の歴史のなかでその人物を位置づけること。そして、この建築家について、第三者がその業績やキャラクターがわかるように、解説文を書きなさい。

建築を以外を主に学んだ者は、建築以外のデザイナーでも可とする。

仙台になんらかの形でかかわりがある人物であることが望ましい。

文章のスタイルは実在する建築家のガイドブックである多木浩二・飯島洋一・五十嵐太郎編『現代建築家101』（新書館）にならうこと。

●原稿の分量、執筆上の注意点

それぞれ「プロフィール」と「本文」の二つから構成される。

①プロフィール

30字×9行=270字で、プロフィール（どのような点で注目すべき建築家であるかの紹介）をまとめる。

②本文

27字×66行=1782字（見開き2ページ）

③図版

代表的な建築の写真図版を1点、解説の文章に添えて、小さく入れる。簡単なキャプションを添えること。

●第1次チェック

12月22日

●参考文献

磯達雄、「新しい建築家像」日経アーキテクチュア1994-9-112

村松貞次郎ほか、「私の発見した建築家」新建築1981年12月臨時増刊『日本の建築家』

ぼむ企画、「Aの虚像～物語の中の建築家たち」日経アーキテクチュア2007～08連載